

彙 報

昭和 50 年度第 2 回常任委員会

日 時：昭和50年6月14日（土）午前11時～午後2時

場 所：関西学院大学

出席者：服部四郎，池上二良，梅田博之，大東百合子，江 実，崎山理，
西田龍雄，早田輝洋

欠席者：長谷川欣佑（委任状あり）

- 議 事：1) 各種書翰について報告があった。
- 2) 事務引継ぎについて会長よりくわしい報告があり，種々意見がかわされた。
- 3) 会計引継ぎについて種々の意見がかわされた。
- 4) 公開講演謝礼は，会員5千円を1万円，非会員1万円を2万円に増額することとした。ただし，会長就任講演には謝礼を出さない。
- 5) 大修館内事務所を6月一杯で無人化することとした。
- 6) 50年度第1回委員会へ提出の議題を決定した。
- 7) 寄贈図書・雑誌を東大に寄贈することをやめる。なお，今後はすべて大修館内学会事務所で受け入れることとする。
- 8) 『言語研究』バックナンバーの処理について種々検討した。
- 9) 大学図書館等のうち，個人会員と同様に会費を納入するものは団体会員として残すが，国立大学・研究所など『言語研究』納入の手続の煩瑣なものは，会員扱いとせず，今後，大修館から購入する形に切替えることとした。
- 10) 本学会のパーマネント・アドレスとしての大修館内事務所のほかに会長の事務局を設け，非常勤の事務員を1名置く必要のあることで意見が一致した。

- 11) 『言語研究』は、一斉発送するほかに、新入会員のため100部程度を事務局に用意しておくこととなった。
- 12) 在京常任委員の職務分掌について相談し、渉外事務は長谷川欣佑委員が担当することになった。

昭和 50 年度第 1 回委員会

日 時：昭和50年6月14日、午後5時半～8時半

場 所：阪急甲東園駅前、椿荘

出席者：服部四郎，池上二良，泉井久之助，岩井隆盛，梅田博之，大江孝男，大東百合子，長田夏樹，岸本通夫，北村甫，小泉保，江 実，阪倉篤義，崎山理，佐藤則之，柴田武，関本至，田村すゞ子，林栄一，早田輝洋，蛭沼寿雄，堀井令以知，村山七郎，山口秀夫，吉川守，吉町義雄，鈴木孝夫，日下部文夫

欠席者：(委任状あり) 池上禎造，井桁貞敏，井上和子，井上史雄，榎垣実，大江三郎，奥津敬一郎，川本茂雄，小沢重男，金田一春彦，倉石五郎，小島公一郎，五島忠久，小林英夫，佐藤喜代治，佐藤茂，佐藤純一，辻直四郎，寺村秀夫，徳川宗賢，徳永康元，中島文雄，野上素一，野村正良，長谷川松治，服部健，林 大，日野資純，平山輝男，藤原与一，榑井迪夫，松田伊作，三宅鴻，頼惟勤，矢島文夫

(委任状なし)：原田信一，岩倉具実

(海外出張中)：亀井孝，国広哲弥，湯川恭敏

- 議 事：1) 昭和49年度第7回委員会(3月31日)議事録を修正の上，確認した。
- 2) 常任委員，編集委員長，会計監査委員の選挙結果について会長より報告があった。
 - 3) 第1回常任委員会(5月17日)について会長より報告があった。
 - 4) 第29回九学会連合大会(5月18日)について会長より報告があった。言語学会から同連合への委員を選挙し無記名投票の結果，日下部文夫氏が当選した。

- 5) 次の諸案件を議するために第2回委員会まで制度検討小委員会を設置したい旨、会長より提案があり、承認された。
 - a) 選挙管理委員会委員選出の規則。
 - b) 選挙規則の修正（昭和49年10月12日の委員会で可決のものに50年3月31日の委員会で可決のものを統合する）。
 - c) 会計監査委員を個人会員から委員（会長を含まず）が選出する案について。
 - d) その他。構成メンバーについては、旧小委員会（但し徳川宗賢氏は関西地区へ転勤のため除外）に新たに2名を加えるという提案が承認され、選挙の結果、梅田博之、長谷川欣佑の両氏が当選した。
- 6) 秋季大会開催について計画を更に具体的にした。なお、吉町義雄委員より慣例に反し本年度は2回とも関西で行なうことについて質疑があった。
- 7) 来年度大会開催地については1回は首都圏、1回は他の地区とすることに決定した。
- 8) 第1回常任委員会（5月17日）の際、前委員長より決算（案）書類を受け取り、会計の引継ぎを行ったが、なお種々検討の必要があるので本委員会には報告し得ない旨、会長より説明があった。
- 9) 会費未納者が多数にのぼるので、それに関する整理を行うまでは予算案がたてられない旨、会長より説明があった。なお、会費を満2年滞納したら「言語研究」の発送を停止することになった。
- 10) 事務局に関する第1回及び第2回常任委員会における決定について会長より説明があり承認された。
- 11) 夏期言語学講座の構想について会員のアンケートをとることが諒承された。
- 12) 研究発表（6月15日）の座長は長田夏樹、岩井隆盛、吉町義雄

の3委員にお願いすることとした。(15日当日、吉町委員の都合により岸本通夫委員に変更)

- 13) 編集委員長から編集委員を次のように決定した旨、報告があった。

井上和子, 北村甫, 鈴木孝夫, 竹内公誠, 柘植洋一,
原田信一

なお、大会の研究発表要旨は従来通り掲載することとし、期日までに届かない分については題目のみ掲載することになった。

- 14) 岸本通夫委員から、7月5日(土)午後1時より、京大人文学研究所においてヨーロッパ系言語・文学研究資料情報センターに関するシンポジウムに言語学関係から、次の諸氏の出席が要請されているので、諒承されたい旨の発言があり諒承された。

徳永康元, 和田祐一, 岸本通夫

第3回常任委員会

日 時：7月12日(土)午後2時～午後9時

場 所：東京言語研究所内、本学会事務局

出席者：服部四郎, 池上二良, 梅田博之, 大東百合子, 江 実, 崎山理,
長谷川欣佑

欠席者：西田龍雄, 早田輝洋(共に委任状あり)

- 議 事：1) 6月15日の会員の集会は会則に照らして「総会」と認めることに意見が一致した。(第2回委員会で「集会」に修正。)
- 2) 秋季大会の細目について検討した。
- 3) 『言語研究』の依頼原稿の枚数制限をはずすことについて検討した。
- 4) 昭和49年度決算案について検討し、支出の費目の名称及び立て方に適切でない点があり、特に雑費についてはその内訳を明記すべきであるとの見解に達した。
- 5) また、決算案書類ならびに監査の仕方に問題があるとの見解に達した。

- 6) 昭和50年度予算案の骨子を作成した。

制度検討小委員会

この小委員会は、本年度第1回委員会において、限られた問題を検討するために次回（即ち第2回）委員会まで設けられたもので、委員は次の諸氏である。

梅田博之、大東百合子、江 実、佐藤則之、柴田武、服部四郎、
長谷川欣佑

第1回

日 時：7月26日（土）午後1時

場 所：東京言語研究所内、本学会事務局

欠 席 者：柴田武、長谷川欣佑

- 1) 話し合いにより江委員を委員長とすることにした。
- 2) 会計監査委員の選出方法、選挙規則、および選挙細則の修正について議した。

第2回

日 時：9月20日（土）午後2時

場 所：東京言語研究所内、本学会事務局

欠 席 者：長谷川欣佑

- 1) 会計監査委員の選出、任期等に関する修正案を作成した。
- 2) 会長、会計監査委員、および常任委員が任期の途中で交替した場合の規則（案）を作成した。
- 3) 選挙規則および選挙細則の修正案を作成した。
- 4) 研究発表等に関する内規（『言語研究』65号所載）を常任委員会において再検討することになった。

第4回常任委員会

日 時：9月6日（土）正午～午後8時半

場 所：東京言語研究所内、本学会事務局

出 席 者：服部四郎、池上二良、梅田博之、大東百合子、江 実、崎山理、
西田龍雄、長谷川欣佑、早田輝洋

議 事：1) 第71回大会の発表者（6名）を決定した。

- 2) 第71回大会プログラム原稿を作成した。
公開講演は10月11日（土）3時より，下宮忠雄，泉井久之助両氏に依頼することに決定した。
- 3) 第5回常任委員会を10月11日午前11時より，第2回委員会を同日正午より，京都産業大学において開くこととなった。
- 4) 昭和49年度決算案の審議。
- 5) 昭和50年度予算案の決定。
- 6) 本学会より CIPL への寄付金を年額 US \$ 200 とすることになった。
- 7) 第72回大会の開催は学習院大学（大会運営委員長は大野晋氏）に依頼することになった。
第73回大会の開催については，中京地方が望ましく，同地方の大学等を打診してみることにになった。
- 8) 『言語研究』のバックナンバーの注文は，今後大修館が受けることになったが，大修館になく，本会事務所にある号は，本会から大修館へ定価の31%引きの値段で頒けることになった。
- 9) 『言語研究』第68号の表紙の裏表の原稿を決定した。

第5回常任委員会

日 時：10月11日（土）午前11時～正午

場 所：京都産業大学3号館，2階会議室

出席者：服部四郎，池上二良，大東百合子，江 実，崎山理，西田龍雄，
早田輝洋

欠席者：梅田博之，長谷川欣佑（共に委任状あり）

- 議 事：1) 委員会で，第2回委員会通知に記載されていない二つの選挙を行なうことになった旨，会長より報告があった。
- 2) 昭和49年度決算案の審議。この決算案は，前年度よりの繰越額を修正する必要があることが専門家の繰越高に関する計算により明らかとなったが，これより先，8月9日に梅田博之，大東百合子両常任委員が算出した本年3月末残高と5月17日現在の

残高との関係はこの観点から計算し直すと、完全に張尻が合い、この点から見ても、上記48年度末の繰越高の専門家の修正案が正しいと認められることが明らかとなった。

- 3) 10月6日付の会長あての書簡により、前委員長柴田武氏も、これに関連する修正を49年度会計報告案に加えることを承認していることが報告された。

第2回委員会

日 時：昭和50年10月11日（土）正午～午後3時

場 所：京都産業大学，3号館2階会議室

出席者：服部四郎，池上二良，井上史雄，井上和子，大江孝男，大東百合子，日下部文夫，江 実，小林英夫，佐藤則之，柴田武，徳川宗賢，野上素一，矢島文夫，小泉保，日野資純，吉町義雄，池上嶺造，泉井久之助，岸本通夫，阪倉篤義，崎山理，蛭沼寿雄，堀井令以知，村山七郎，関本至，吉川守，早田輝洋，松田伊作

欠席者（委任状あり）：佐藤喜代治，長谷川松治，并桁貞敏，梅田博之，奥津敬一郎，小沢重男，亀井孝，川本茂雄，北村甫，金田一春彦，國広哲弥，倉石五郎，佐藤純一，田村すゝ子，辻直四郎，中島文雄，林 大，平山輝男，三宅鴻，頼惟勤，岩井隆盛，小島公一郎，佐藤茂，野村正良，楳垣実，長田夏樹，五島忠久，寺村秀夫，林栄一，山口秀夫，藤原与一，榎井迪夫，大江三郎

（委任状なし）：鈴木孝夫，徳永康元，服部健，原田信一，岩倉具実

（海外出張中）：湯川恭敏

報告および議事：

- 1) 第1回委員会議事録承認。
- 2) 常任委員会の決定事項について会長より報告。
- 3) 大修館書店内事務所につき会長より報告。
 - ・無人化したこと。
 - ・振替番号はそのまま使用できること。ただし、振替番号は振

替課の都合により「東京 8-99683」と修正された。

『言語研究』の発送は、発送屋に最新の会員名簿を渡して、毎回自動的に行なわれるようにする。

- 4) 大修館事務所が大修館第2ビルから大修館書店（千代田区神田錦町 3-24）内に移転したことにつき会長より報告。
- 5) 会長は就任後の最初の大会で就任講演を行ない、その講演を『言語研究』に公刊する義務があることになった。ただし、その枚数には投稿原稿の枚数制限を適用しないことになった。
- 6) 『言語研究』の海外寄贈先について、会長あてに意見を具申されるよう会長が慫慂した。
- 7) 制度検討小委員会の報告。
 - ・別紙「会則・選挙規則改訂案」「選挙細則案」を配布。
 - ・会則第4条、事務所のアドレスの変更（大修館書店内）は承認。
 - ・その他の諸件に関する規則の改訂案は、委員全員の郵送投票により決をとることになった。
- 8) 選挙管理委員の選出は、上の改訂案の決定をまって郵送投票によることになった。

なお、選挙管理委員の選挙の管理は、今回のみは在京常任委員がその事務を行なうことが承認された。
- 9) 語学文学研究連絡委員（過去の委員：梅田博之氏、徳永康元氏、前田護郎氏）の選出。
 - ・無記名投票の結果、長谷川欣佑氏が当選。
- 10) 東洋学研究連絡委員（過去の委員：小沢重男氏、河野六郎氏、泉井久之助氏）の選出。

無記名投票の結果、江 実氏が当選。
- 11) ヨーロッパ系語学文学資料情報センター（仮称）設立準備小委員会の委員の選出。

無記名投票の結果、岸本通夫氏が当選。
- 12) 昭和51年度科学研究費補助金の配分にかかる審査委員候補者

(50年度の委員：第1段，岸本通夫；第2段，井上和子。過去の委員：大竹敏雄，日下部文夫，小沢重男，川本茂雄，佐藤孝，北村甫，亀井孝，柴田武の各氏)の選出。

無記名投票の結果，第1段委員候補者に西田龍雄氏，同補欠に蛭沼寿雄氏が当選。

- 13) 常任委員の補欠選挙を51年3月に行なう案につき会長より説明，諒承された。
- 14) 第4回常任委員会で決定の予算案（郵送により配布済）を審議の結果承認された。ただし，「委員会費，常任委員会費」は，本年度の特別事情により，目立って多額となっているので，その一部を「予備費」に繰入れるようにという修正案が出て承認された。
- 15) 本会より CIPL への寄付金を200米ドルとすることを承認した。
- 16) 第12回国際言語学者会議は，1977年にウィーンで開催されることに決定したとの報告があった。（1st Circular を必要の方は事務局まで申込まれたし。）
- 17) 柴田武前委員長提出の昭和49年度決算（案）は，帳尻の合わない点があり，かつ種々疑点があるので，綿密に調査したところ，前年度よりの繰越高に誤りがあり，その差額を認めるとすべての帳尻が合うことが明かとなった旨，会長より報告があった。しかし，この繰越高は昭和48年度会計報告（『言語研究』67号，p.93）に公表済みなので，問題の差額を別途の繰越高として49年度の会計報告に組入れることを会長が提案し，承認された。

なお，このような食い違いの出た背景につき柴田前委員長より事情説明があり，陳謝の意が表明された。会長は，調査の結果，昭和48年度会計報告は，収入が少なくとも350,130円だけ，支出が少なくとも87,900円だけ実際より少なく報告されていることが確認された旨，述べた。

第71回大会（京都産業大学にて。大会運営委員長は泉井久之助氏。）

10月11日 (土)

公開講演 (午後 3 時より)

バスク語・コーカサス語と一般言語学

下 宮 忠 雄

フンボルトについて

泉 井 久之助

12月12日 (日) 上に同じ

研究発表 (午前 10 時 30 分 ~ 11 時 50 分)

1) ガノ変形の個人差再考

原 田 信 一

2) 言語習得と言語理論

伊 藤 克 敏

会員総会 (午後 1 時 ~ 2 時)

研究発表 (午後 2 時 ~ 5 時)

3) Iris Murdoch の作品における現代英語の

関係代名詞の選択基準について

和井田 紀 子

4) Left Dislocation と Relative Shift の接点

有 吉 俊 二

5) 内在的焦点化と前提的焦点化

平河内 健 治

6) 露都創刊日本語文典

吉 町 義 雄

◇ 会員の住所変更

事務局の原簿と『会員名簿』とを訂正するにとどめ、『言語研究』には掲載しないことになった。

◇ 寄贈図書リスト (昭和 50 年 8 月 ~ 11 月)

佐 田 哲 夫『現代日本語の語順』

笠 間 書 院 (1975)

渡 部 昇 一『英語学史』

大 修 館 (1975)

福 田 昆 之『日本語の系統論的研究』

FLL (1975)

国立国語研究所『電子計算機による国語研究 VII』

(1974)

- 高橋太郎『幼児語の形態論的な分析』 国立国語研究所 (1975)
 国語学 102 国語学会 (1975, 9)
 計量国語学 74 計量国語学会 (1975, 9)
 人類学雑誌 Vol 83, No 2 日本人類学会 (1975, 6)
 民族学研究 Vol 40, No 1 日本民族学会 (1975, 6)
 日本民族学 100; 101 日本民族学会 (1975, 8 ; 9)
 宗教学研究 Vol 49, Nos 1 ; 2 日本宗教学会 (1975, 7 ; 9)
 考古学雑誌 Vol 61, No 1 日本考古学会 (1975, 7)
 朝鮮学報 No 76 朝鮮学会 (1975, 7)
 東洋学報 Vol 56, No 1 東洋学術協会 (1974, 6)
 東洋文庫年報 (昭和48年度) 東洋文庫 (1975)
 国語学研究 No 14 東北大学文学部 (1975, 3)
 Area and Culture Studies 東京外国語大学 (1975, 3)
 アジア・アフリカ言語文化研究所「通信」24 東京外国語大学 (1975, 8)
 国語国文 No 11 立正大学 (1975, 3)
 電気通信大学学報 Vol 26, No 1 (1975, 8)
 言語文化研究 No 1 大阪大学言語文化部 (1975, 7)
 大阪教育大学紀要 Vol 23 (1975, 1)
 エスペラント 43 : 8 日本エスペラント学会 (1975, 8)
 カナノヒカリ 636-638. カナモジカイ (1975, 8-10)

Hoijer, Harry: *A Navajo Lexicon*, University of California Publications—Linguistics 78, Berkeley, 1974

Teng, Shou-hsin: *A Semantic Study of Transitivity Relations in Chinese*, University of California Publications—Linguistics 80, Berkeley, 1975

Ligeti, Louis: *Histoire Secrète des Mongols, Texte en Écriture Ouigoure Incorporé dans la Chronique Altan Tobci de Blo-Bzan Bstan-'jin*, Monumenta Linguae Mongolicae Collecta VI, Budapest, 1974

Ligeti, Louis: *Les Douze Actes du Bouddha, Arban Qoyar Jokiyangyu*

- Ůiles de Čhos-kyi 'Od-zer, Traduction de Šes-Rab Sen-ge*, Monumenta Linguae Mongolicae Monumentis Traditorum V, Budapest, 1974
- Veröffentlichungen der Wissenschaftler der Universität Rostock 1972*, Bibliographie, Rostock Universitätsbibliothek, 1974
- Russkij Jazyk v Shkole 4, 5, 1975, Moskva
- Sovetskaja Tjurkologija 3, 1975, AN SSSR, AN Azerbajdzhanskoj SSR, Baku
- Russkaja Literatura 3, 1975, AN SSSR, Institut Russkoj Literatury, Leningrad
- Vestnik Leningradskogo Universiteta 8, 14, 1975
- Movoznavstvo 4, 5, 1975, AN Ukrains'koi RSR, Kiiv
- Ukrains'ka Mova i Literatura v Shkoli—Schomisjachij Metodichnij Zhurnal Ministerstva Osviti URSR 7, 8, 9, 10, 1975, Kiiv
- Nashe Rhech—Ůstav pro Jazyk Cheský—1, 2, Ročník 58, 1975, Praha
- Slovo a Slovesnost, 2, XXXVI, 1975, Praha
- Archív orientální (Ar Or)—Quarterly Journal of African, Asian and Latin American Studies—2, Vol. 43, 1975, Praha

昭和 49 年度会計報告

《収 入》		《支 出》	
前 期 越 繰	-112,554	刊 行 経 費	1,323,154
繰 越	11,449	発 送 料	126,390
会 費 (現金)	285,350	大 会 関 係 費	119,110
(振替)	2,453,510	通 信 費	196,180
(銀行振込)	443,836	事 務 用 品 費	71,510
雑 誌 売 上	20,350	九 学 会 連 合 会 費	20,000
補 助 金	200,000	C I P L 寄 付 金	0
利 息	9,742	謝 金 及 び 事 務 所 賃 借 料	339,850
寄 付 金	0	雑 費	663,342
計	3,311,683	計	2,859,536
	残 高		452,147円

注)

「刊行経費」は『言語研究』66号, 67号の分。

「発送経費」は同じく 64号, 65号, 66号, 67号の分。

「事務所賃借料」は年 60,000円。

「雑費」の内訳は次の通り。

委員会等会合費	77,638円				
『会員名簿』印刷代	316,200				
会則等印刷代	94,950				
選挙関係費用	<table> <tbody> <tr> <td>選挙管理委員会費</td> <td>69,715</td> </tr> <tr> <td>書類封筒等印刷費</td> <td>57,700</td> </tr> </tbody> </table>	選挙管理委員会費	69,715	書類封筒等印刷費	57,700
選挙管理委員会費	69,715				
書類封筒等印刷費	57,700				
雑 費	47,139				
計	663,342円				

◇ 本誌は文部省の昭和 50 年度科学研究補助金の交付を得て刊行されたものである。